

大豊シャクヤクの会

耕作放棄地をなくして、 日本一の棚田シャクヤク園をつくりたい



助成区分	植樹	環境 保全	調査・ 研究	教育・ 啓蒙
実施状況	参加者数のべ	391名	新たに開墾した面積： 381m ² 植えたシャクヤク株数：182株	活動の全体目標 に対する達成度 67% (品種数)

活動目的

本活動の目的は、長期にわたって耕作がされずに荒れた棚田の耕作放棄地を復活させ、様々なシャクヤクの花が咲く美しく豊かな集落をつくることにあります。本事業によって、景観が維持されること、農地が再生することで、里山としての機能(国土保全、水源涵養、生物多様性など)を保全すると共に周辺農地への悪影響を抑制し、地域住民ないしは地域外在住の当該地域出身者やの方々へのこの地域への愛着や誇りを一層強くすることができると考えています。

活動内容

- ・耕作放棄地の開墾
- ・新規購入シャクヤク苗の定植
- ・既存シャクヤクの株分けによる増殖と定植
- ・水路に機械が通れる「丸太橋」設置
- ・シャクヤク園の維持管理
- ・シャクヤク花見イベント企画および開催



成果

- 1、耕作放棄地として10年以上未利用だった棚田約281m²開墾して、一部をシャクヤク園に造成した。
- 2、約100m²の耕作放棄地も開墾したものの、国土交通省の地滑り対策事業のため園地としての利用を控えている。
- 3、シャクヤクを51品種、182株を新たに植えることができ、215品種1700株を保有するまでになった(平成30年10月現在)。
- 4、シャクヤク園の管理などに耕運機やトラクターなどの機械が入るために、広い道がなく、水路に橋がない状況であったが、丸太で橋をかけて、機械を利用できるようになった。
- 5、本課題の背景には、シャクヤクを得ることで地域活性化や都市間交流などに繋がることを期待している。5月のシャクヤクの開花期には、花見イベントを企画することができ、集落や劇団などの協力により演劇「宮城野」を上演することができた。特に民家を利用して出演者・観客・地元の方と交流を行うことができた。スタッフを含めて35名が参加した。
- 6、地元の方にも好評であった演劇イベントは秋にも開催し、多くの方と交流ができた(およそ40名が参加)。
- 7、既存のシャクヤク園がm²あるが、助成金の一部を使って栽培管理を行うことができた。

工夫した点

- 1、シャクヤク園の草管理を省力化するために、防草シートを用いた。しかし、長雨によって張っていない部分から草が侵入して、より大変な状況になってしまった。
- 2、除草剤も一度利用した。同様に長雨によって2回目の散布ができずに、草が多い茂った。
- 3、できるだけ機械化した。新たにトラクターを導入した。
- 4、演劇については、協力団体が高知県芸術祭の助成金を得ることで資金面の負担が減った。
- 5、高知大学のボランティア学生に継続して来てもらえるように、受け入れ態勢を整えた。

今後の課題

我々の活動は、土日祝日に限られるため、天気によって管理作業ができないなど問題がみられた。特に雑草管理が非常に困難である。面積が増えて園地の管理が今後の課題としてより一層重くのしかかる。対策としては、今まで刈り払い機で行っていた除草を、ハンマーナイフモアに置き換えたり(試用したところ、作業時間を約85%減少)、今まで以上に積極的に除草剤散布を検討する必要がある。現状の管理体制では最終目標の320品種6000株を維持できないので、「日本一の品種数を保有」するようなシャクヤク園として目標変更が必要かもしれない。ただし「棚田シャクヤク園」としては他に例はない。